

# 金剛院 イベントNEWS

●企画・発行/金剛院  
●制作/クリプロ

## ～一龍斎貞花師匠を招いて「講談の会」が開かれました～

「一龍斎貞金」を拝命した住職、初の講談「報恩軍配物語」大好評！



「象のトンキーとワイリー」で戦争の悲劇を次世代に語り伝えるのも師匠のライフワークのひとつ



「鎧の着逃げ」で軽妙な笑いを誘った貞弥さん



「待ってました！」の掛け声とともに登場した「貞金」こと住職の講談には会場から大きな拍手が！



去る10月2日「講談で聞く弘法大師御一代記」と銘打った講談の会が開かれました。今回出演した五代目・一龍斎貞花（いちりゅうさいていか）師匠は多くの「仏教講談」を各地で口演されていますが、

それもそのはず、師匠は仏壇屋さんのお生まれ。そして弟子の貞弥（ていや）さんも大分県のお寺のお嬢様と、お寺や仏教と縁の深いお二人による講談の会となりました。

そしてこの日もうひとつ「裏目玉」の出し物は師匠から「一龍斎貞金（ていこん）」のお名前を頂き、厳しい(?)稽古を重ねた住職による「報恩軍配ものがたり」の一節。お世話になった御師僧から直接聞いた話を、いつか皆さんにお伝えしたいという住職の思いが実現した一節でもありました。

参加した皆さんからは「堂に入っていてとても初めてとは思えない」「いい話で涙が出そうになりました。来てよかったです」といった感想が。

またこの会を取材していた『佛教タイムズ』（お寺向けの週刊新聞）の記者さんは「講談という形で（仏教の）教えを分かりやすく伝える試みは、とてもすばらしいと思います」と話してくれました。次回が楽しみです！



江戸川区の善養寺（ぜんようじ）に今も大事に保管されている白木の軍配は昭和48年9月の秋場所で三役行司・式守伊三郎によって使われたもの。関係者の写真も披露されました



（上）休憩時には新米や健康食品などの物販コーナーも大盛況。（右）楽しいおしゃべりと絶妙の間で会場を湧かせた、花島世津子さんのマジック。（下）最後は「ジャンケン大会」で貞花師匠直筆の色紙がプレゼントされました



★初の講談会、いかがでしたでしょうか。人前でお話することにはある程度慣れているとはいえ、本番前はドキドキものだったんです。今回、貞花師匠に台本の構成から声の出し方、視線の向け方など細かく稽古をつけていただいて、また実際に自分で話してみて講談の奥深さ、難しさを実感しました。プロはすごい！そして実は「マジック」も大好きなので挑戦してみたいという気持ちも、ちょっとだけ……（住職記）